

出句用紙(番号―)

作者名

桃

立春の火渡りの熾あきならしける

鳴き交はす一羽は見へず花ミモザ

魚いげ跡いに四隅いがありぬお山い焼き

ふるさとの荒れ野の東風を受け継ぎぬ

冬いぬくいいのちの電話いある此岸い

南柯句会

出句用紙(番号2)

作者名 富野香衣

	手鏡に追儼の鬼と化す姫
	春動く甲冑文字の天地人
〇	かまばこの板の墓標や春の雪
	カレージの監視カメラに猫の恋
〇 〇	シミモザ咲く遺影の母の片るるば

南柯句会

出句用紙(番号なし)

作者名 山田 太陽

兼

	○ ○		○ ○	
着膨れて野天将棋は日が暮れて	幼子 <small>あさなご</small> は見た方へ行く花三毛ザ	無機質なジョッポングセニターみなマスク	飼い主も抱かれし犬も着膨れて	貼るカイロ8枚ですと言おう男

南柯句会

出句用紙(番号 4)

作者名 二冨

。	。	。	。
大寒や横断歩道に振る小旗	提灯におでんの三文字 <small>サモイ</small> 寒の月	寒晴や廃校跡の水族館	熱燗と酒豪十人土佐料理
			小袋はティファニーブルーシミモザ添え

⑤

出句用紙

作者名 北浦 隠也

				○	○	○
			路地裏の大根 <small>だいこん</small> 伝説皿の上			
			コロナ下や酔ゆばよろそろ着がくれて			
			シミモザ色 幸運となる宝クジ			

出句用紙(番号6)

作者名 岡本へちま



◎	冬 <small>ゆ</small> 夕 <small>ゆ</small> 焼主人の顔をのぞく犬
○	さよならの言葉の名残り白き息
◎天◎	梅開く日 <small>ひめく</small> 捲り少し <small>や</small> 瘦せし頃 <small>ころ</small>
○	早春の無 <small>む</small> 垢 <small>く</small> の空へと熱気球
○	三毛 <small>みみ</small> が咲く国際結婚 <small>けっこん</small> 女 <small>むすめ</small> 決めました

出句用紙(番号 7)

作者名

杏

○	○			○
花 <small>はな</small> ミンセガ <small>みんせが</small> 咲 <small>さ</small> くは <small>は</small> 早 <small>はや</small> いと <small>い</small> 雀 <small>すずめ</small> フ <small>フ</small> フ <small>フ</small> く	○ ○ ○ 六 <small>むつのはな</small> 花 <small>はな</small> 襟 <small>えり</small> に <small>に</small> 咲 <small>さ</small> いて <small>は</small> 消 <small>き</small> えて <small>て</small> ゆ <small>ゆ</small> く	春 <small>はる</small> の <small>の</small> 風 <small>かぜ</small> 散 <small>ち</small> 髪 <small>かみ</small> 帰 <small>かへ</small> りの <small>の</small> 道 <small>みち</small> で <small>で</small> 会 <small>あ</small> ふ	今 <small>いま</small> 更 <small>さら</small> に <small>に</small> 凡 <small>たふ</small> だ <small>た</small> な <small>な</small> 愚 <small>おろ</small> だ <small>ろ</small> な <small>な</small> 日 <small>ひ</small> 永 <small>なが</small> かな	な <small>な</small> にか <small>か</small> し <small>し</small> り <small>り</small> モ <small>も</small> の <small>の</small> 声 <small>こゑ</small> す <small>す</small> る <small>る</small> 寒 <small>さむ</small> 夜 <small>よ</small> が <small>が</small> な

「こぼ

出句用紙

作者名

宮本

こぼ

南柯句会↑

風花に崩れ落ちゆく競走馬↑

☆ミモザ咲くサニーサイドを歩きたい↑

☆揃いのジャケット靴まで買えぬ漫才師↑

○ 血流はバイパスぬけて春の水↑

~~ぬけられます玉の井路地の花は甘梅↑~~

○ 可合会夢に花の歌の眼の本の川馬女集

出句用紙

作者名

鮫島

しょうん

南柯句会↑

どこ向かう知らない道のミモザかな↑

水仙や出船見守るマリア像↑

底冷えの土間に音刺すスノコかな↑

自販機の音ひとつして山眠る↑

冬眠の虫居て戻す外筈↑

出句用紙

10

作者名

安藤

町彦

南柯句会

寒鯉は水の底にて髭伸ばす

つまず

正^下形[◎]なきものに躓く寒さかな

こぶ

一 街路樹に力瘤あり寒波急

一 バレンタインデーヤリングよく揺れて

一 アイロンを立ててシモザの香りけり

11

出句用紙

作者名

横田

清史

南柯句会

早梅や高い枝から花付けし↑

春めくや旅行ガイドを手に取りし↑

コーヒーを甘くして飲む寒戻り↑

春寒し疑惑だらけの五輪かな↑

保育園お迎えに咲くミモザかな↑

出句用紙(番号12)

作者名 疾風はやて

うす曇り光分け合うミモザかな

ミモザ咲くあとかたもなま冬のはな

先さまかり駆けて学びの入試はじまれり

立春や体内時計狂いだす

うらやま麗かやあくびして見る朝ドラマ

13

出句用紙(番号 13)

作者名 ひろし

			〇	
	滑りたい 競技のように凍結路	すれ違 ^{カタ} う トラック語る 雪景色	見渡せば 枯野を駆ける 影と風	目をツヅリ 一年想う 恵ち巻
				ミモザな らむに よりサ ラダ探 したい

南柯句会

出句用紙(番号 14)

作者名

花山

〇〇 百年の孤独湧き出づ寒の水

大老の素っ飛ぶ首へ春の雪

蒼空へはばたいて逝く檻の鷹

恋に破れ愚痴は枯野を廻りめぐる

禍の風を渡らんニミセサの黄

出句用紙(番号 15)

作者名

平華

○○○○		○○○	○	○○
春の宵遺影の父は聞き上手	あの角はフレンチミモザの咲くところ	菜の花を摘むアマビエの三番叟	居酒屋に四人のおんな春の暮	春近一枝で下描き <small>したか</small> 金魚絵師

出句用紙

作者名

水野 顯

。	大寒の風吹しかりて手と温
	暗暗と冥心ひとしお冬の月
	冬の星降ってくるよな美しい
	湯じのせめじのに寝床をよばやと
前	わからずに調づきくは花シミモザ

さえず

なか

轉りは調律半ば春隣り

すもぐ

素潜りて花紋を残す

かいつぶり

鳩

山焼きの燻ぶ煙やボタの山

くす

奥山に馬酔木蓄みて君を待つ

あしび

咲き初めしミモザの便り父憶ふ

そ

おも

〇〇〇

〇

兼題句

作者名…(安藤) 英彦

出句用紙

作者名

藤子久

○	葛湯吹くには黙々と老夫婦
○	金日生の燃ゆ寒暁の通勤路
○	冬枯れで主なき葉箱佇めり
	冬晴れややっと出番のベビーカー
兼	ペラニダに溢るる黄色カ化ミモサ

出句用紙

作者名 椿本 晨起朗

◎	吾 <small>あ</small> にもある正邪の二面鬼やらひ
◎	ひとしきり狭庭と思案植木市
○○○	梅が香や村に真直ぐな道のなく
⊗	ふる里はいつしか町に花ミモザ
○○	(兼)花ミモザ <small>出</small> 窓 <small>出</small> に小さきテデーバーア

南柯句会

出句用紙

作者名

上田秋霜

	○	◎○○○	○	
	花ミモサ逃 <small>のが</small> せば惜レキ恋 <small>こ</small> なりし	煌々と灯す豆腐屋寒々の朝	日脚伸ぶ細き腕 <small>かみ</small> の阿修羅像	長考の藤井聡太の懐手
				ディック・ミネ聴いて熱爛二合の夜

出句用紙(番号22)

作者名 山本久美

			〇〇	
冬、枯れにオドリコソウのぐさ愛嬌	サ路の葦葎シルバーカーの試運転	春の泥石ころにのせおままこと	花ミモザ私の彼はローマン	寒に入らずん胴型の保温瓶

南柯句会

出句用紙(番号 23)

作者名

香織

		○ ○	○	
		小さきく葉もあまぬく霜の縁飾り	路地裏のパン屋の灯り春隣	道端に死骸の如く黒マスク
		花三モザ補えし我の水晶体		
		カップ取る鏡に春と水垢と		

南柯句会

出句用紙(番号 24)

作者名 山下絹

兼

◎	北陸の屋根に重なる牡丹雪
	部屋干しの香り <small>ほの</small> 灰かに床暖房
	四人目が出来てしむてん木の芽時
○	<small>うすらい</small> 薄氷を見つけて踏んで校舎まで
	社交家の妻は庭先花ミモザ

南柯句会

25 出句用紙

作者名 山崎 たか

		〇		
	ひとり酒 梅の一枝 二人酒	幻の銘と 酒器や春 の宵	夫からの 手紙のじ とし春の 夢	うららかに 夢みる うらの頬 のとき
	手作りの ブーケの メモが 同じ年			